

## 平清盛・京の大仏ゆかりの鴨東

平安時代後期、松原通の鴨川東には平清盛を はじめとする平氏の六波羅第(ろくはらだい) があり、平氏が滅んだ後の鎌倉時代には、京 の警備と朝廷監視のための六波羅政庁(探題) が置かれています。さらに七条通りをまたぐ 鴨東には、後白河法皇の院政の舞台となる法 住寺殿が造営されています。そして時代を経 て、この界隈に豊臣秀吉と秀頼の、京の大仏 殿となる方広寺が建てられました。

平家物語等でなじみ深い歴史の地を歩き、そ れぞれの栄枯盛衰の痕跡をたどります。



ろくはらみつじ 六波羅蜜寺

京の疫病平癒の為、空也によって創建された真言宗の寺院。 念仏を唱える口から六体の阿弥陀が現れたという伝承から 彫刻された空也上人立像や平清盛坐像のほか、多数の重要 文化財を所蔵しています。境内には平清盛や阿古屋の塚 (台座に石棺が利用されています)、六波羅第、六波羅探 題址碑等があり、周辺には平氏一族の邸宅がありました。

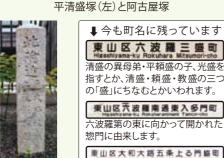


## けんにんじちょくしもん 建仁寺勅使門

平清盛の長男重盛の六波羅第の門、あるいは 平教盛(たいらののりもり)の館門を移築した といわれる銅板葺切妻造の四脚門で、鎌倉時 代後期の遺構を今に伝えます。柱や扉に戦乱 の矢の痕があることから、「矢の根門」または 「矢立門」とも呼ばれています。



平清盛塚(左)と阿古屋塚



平氏六波羅第• 清盛の異母弟・平教盛は、門脇殿と 六波羅探題府址碑 呼ばれていました。

# 忠盛灯篭と祇園女御塚

けんにんじ建仁寺

臨済宗建仁寺派の大本山。建仁2

年(1202)、日本禅宗の祖とされる

栄西によって創建され、寺名は年

り」が行われ、「迎え鐘」を撞く善男善女で賑わい

ます。また本堂裏にある井戸は、昼は嵯峨天皇、

夜は閻魔大王に仕えたという小野篁(おののたか

むら)が、現世と冥界を往還するための入口にし

清水五条駅

号から名づけられました。

お盆に先祖の精霊

を迎える「六道まじ

たと伝えられています。

八坂神社の境内奥に忠盛灯篭があります。平忠盛は伊勢平氏の棟梁で、北 面の武士として武略に優れ、胆力のある武将でした。平家物語の巻六に、 ある雨の夜、白河法皇が寵愛する祇園女御の館へ通った時、前方に鬼のよ うなものが見え、法皇が討ち取るように命じましたが、忠盛が捕らえて見 定めると、蓑笠を付け灯篭に火を灯す八坂の社僧だったという話が伝わり ます。法皇は無用の殺生を避けられたことを喜び、後に忠盛に祇園女御を 下賜されます。この経緯が、平清盛の白河法皇落胤説に繋がります。 付近にはほかにも、祇園女御の館跡に建つ祇園女御塚や建礼門院ゆかりの 長楽寺など、平氏ゆかりの見所が点在しています。

高台寺道と下河

原通を結ぶ石畳

の小路は、別世

界へ誘い込まれ

るような不思議

平泉殿(平清盛)

北御門町

池殿(平頼盛)

な空間です。



摩利支尊天堂卍

建仁寺

建仁寺勅使門

西福寺卍/

六波羅蜜寺

三盛町

小松町

多門町

東山七条

智積院

■開睛

平通盛 小中学校

祇園女御塚



崇徳天皇御廟

六道珍皇寺

安井金比羅宮 •

東山安井

清水道

東山警察署

 $\otimes$ 

■東山区役所

■東山消防署

■東山図書館





東大谷参道

(秋葉三尺坊大権現)

**光**東景寺

祇園女御塚

● 掌美術館

● 法観寺

ᅰ

八坂庚申堂

維新の道

八坂神社

安井金比羅宮

縁切り・縁結びの神

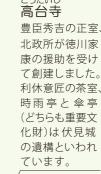
として知られる「多

井のこんぴらさん」

崇徳天皇、大物主神

源頼政が祀られてお

全国三千余社に及ぶ祇園社の総本 社。「祇園さん・八坂さん」として 親しまれ、夏の「祇園祭」、大晦日 の「をけら詣り」が有名です。





法観寺(八坂の塔)

聖徳太子が如意輪観音の



夢のお告げにより建立し たといわれる京都屈指の 古寺。「八坂の塔」で知ら れる五重塔(重要文化財) は、室町時代に足利義教 が再建し、今も東山のシ ンボル的な存在として親 しまれています。



り、境内には大小の絵馬を陳列する絵馬館や

櫛を供養する久志塚(櫛塚)があります。

方広寺 秀吉により創建された巨大な大仏殿内には、 高さ19mの大仏が安置されていたと伝わりま

す。地震や火災で再三崩壊し、現在は大仏殿 跡緑地内の大仏殿基壇跡と、鐘楼に大仏の台座の一部や風鐸な どの遺品(市指定有形文化財)が残存しています。また、豊臣家 を滅亡へと導いた「国家安康・君臣豊楽」の銘文で知られる梵 鐘(重要文化財)のほか、堂内には最澄作・秀吉護持といわれる 大黒天像等も安置されています。



だいぶつでんあとりょくち

大仏殿跡緑地 2000年に行われた大仏殿 跡の発掘成果を生かして 整備された公園。石のべ ンチや、柱の大きさに合 わせた礎石等で大仏殿の 大きさや形を想像するこ

とができます。

方広寺の七不思議

そのいくつかをご紹介します。



豊国神社

豊臣家滅亡の後、徳川幕府 により破壊された秀吉を祀 る廟社を、維新政府が反徳 川の象徴として再興しまし た。国宝の唐門(写真)は伏 見城の遺構といわれ、その 両脇には秀吉恩顧の武将寄 進の名を刻んだ石灯籠が並 、んでいます。

# 平 清盛と後白河法皇

後白河法皇(当時は天皇)は保元の乱において、平清盛と 源義朝の支援を受けて勝利し、その後34年間にわたる院政 の基礎を築きました。その3年後の平治の乱の結果、清盛が義朝 を倒したことにより平氏の時代が始まります。

こうして、清盛と後白河法皇との関係は約20年にわたり、深まっ ていくこととなりました。しかし、その関係も清盛の力が増すに つれて、後白河法皇は清盛を疎ましく思うようになり、1177年 後白河法皇の近臣によって平氏打倒の謀議(鹿ヶ谷の陰謀)がなさ れるに至りました。これは密告により未然に防がれ、事なきを得 ますが、以後ふたりの間には埋めることのできない深い溝ができ たのです。そしてその2年後、ついには清盛が後白河法皇を鳥羽 殿に幽閉し、院政を停止させることによって(治承三年の政変)、 ふたりの亀裂は決定的なものとなりました。

しかし、後白河法皇はこれで歴史の表舞台から消えてしまうよう な人ではありませんでした。1181年、清盛が熱病により死去す るやいなや院政を復活させ、1192年に崩御されるまで、その権勢 は続くことになるのです。

1118 清盛出生 1127 後白河天皇出生 1129 清盛従五位下に叙される 1153 清盛伊勢平氏の棟梁となる 1155 後白河天皇即位 1156 保元の乱(崇徳上皇流罪) 1158 後白河上皇院政開始 1159 平治の乱 (平氏の権勢が確立) 1160 清盛正三位に叙される(武士として初) 1164 蓮華王院造営 1168 清盛出家 1169 後白河上皇出家 1171 建礼門院徳子(清盛の娘)入内 1177 鹿ケ谷の陰謀発覚 1179 治承三年の政変(後白河院政停止) 1180 安徳天皇(建礼門院の子)3歳にて即位



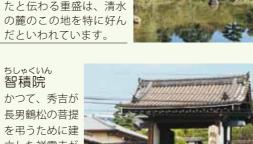
三嶋神社 後白河法皇の中宮が夢のお告げによって懐妊し、 高倉天皇が誕生したことから、勅命により平重盛 が社殿を造営し、守護神として三嶋明神を祀った

ことが始まりです。

智積院

■京都女子大

積翠園 平重盛の山荘庭園と推定 される積翠園。文武両道 に秀で、沈着冷静であっ たと伝わる重盛は、清水 の麓のこの地を特に好ん



かつて、秀吉が 長男鶴松の菩提 秀吉に焼き討ち

された紀州根系 山の学頭寺院の智積院が、家康の帰依を受けて再興し ました。長谷川等伯一派の筆といわれる国宝の襖絵 は、祥雲寺の客殿を飾っていたものです。

豊国廟



(鐘の内側)



方広寺 (大仏) にまつわる七つの不思議。諸説ありますが、

(五右衛門の窓と井戸・大仏餅の看板は現存しません)

方広寺の梵鐘:豊臣家を滅亡に導いた「国家安康の鐘」。その内側

に白い影のようなものが見え、淀君の幽霊と人々は噂しました。

専定寺(烏寺):専定法師が、松の木の上で烏が話しているのを聞

の前田家もその出費に悲鳴をあげたとか、この石が元の場所に戻

五右衛門ほどこしの窓と井戸:耳塚の西にあった石川五右衛門の隠

窓から貧しい人へ金銭がばら撒かれたともいわれています。

れ家には、井戸から伏見城に抜ける地下道があったとされ、蔵の

大仏餅の看板:大仏殿近くにあった餅屋の看板「大仏餅」の「大」の

いて、熊谷直実の往生を知ったという話が伝わっています。

りたいと、夜な夜な泣いたとかいわれています。



京都国立博物館の石仏群 博物館内の工事に伴い出土した、 石仏や塔婆の欠片。方広寺の石 垣を作る際に、石垣の裏込めに されたといわれています。



## 特別展示館(旧帝国京都博物館本館) 京都国立博物館

帝国京都博物館として1895年に完成し、1897年に開館しまし た。日本の建築界の草分けの一人とされる宮廷建築家・片山 東熊の設計によります。煉瓦造りの西洋風建築で、本館・表 門・札売場及び袖塀(北)・札売場及び袖塀(南)が、近代日本 の歴史的建造物として重要文化財に指定されています。



耳塚(鼻塚)

§吉が朝鮮半島に侵攻した文禄·慶長の 役で、戦功のしるしである首級のかわり こ持ち帰った耳や鼻を、この地に埋めて **共養しました。『方広寺石塁および石塔』** して国の史跡に指定されています。

れんげおういん さんじゅうさんげんどう 蓮華王院(三十三間堂)

後白河上皇の院御所、法住寺殿の一画に平 清盛が造進。本堂(国宝)内には丈六の千手 観音坐像(国宝)を中央にして、千体の観音像 (重文)など多数の仏像が安置されています。 (現在の建物は1266年の再建です)

# 蓮華王院南大門(重要文化財)

秀吉造営の方広寺大仏殿の南門として築いたも のと伝わっています。この門に続く築地塀は、 瓦に太閤桐の文様を用いているため、太閤塀と 通称されています。



七条駅

至伏見稲荷

造営したところです。 救ったといわれています。

法住寺 後白河法皇の院 御所であった法 住寺殿の名を残 わてんのうほうじゅうじりょう している寺院。 後白河天皇法住寺陵 本尊の不動明王 鳥羽天皇の第4皇子。かつ 像は「身代わり て法住寺殿内であったこの 不動尊像」とも 陵墓は、後白河法皇が自身 呼ばれ、木曾義仲に攻め入られた の死後を守る「法華堂」を とき、法皇の身代りとなり、難を

七条通



蓮華王院●

ょうげんいん 養源院 秀吉の側室 淀君が父、 浅井長政の 供養のため 創建し、そ の後焼失しましたが、徳川秀忠の正室、

新日吉神宮

崇源院(江)により再興されました。伏見 城の遺構といわれる血天井や、俵屋宗達 の杉戸絵等が有名です。

まり。その後、徳川家によって破却を命じら れた豊国廟前に移転した時期もあったことか ら、江戸時代になると境内の樹下社(豊国神 社とも呼ばれる)には、秀吉を信仰する人々 が大勢訪れたと伝わります。

社を勧請したのが始



滅亡とともに廟 所は破壊されま したが、明治になり廟所が再建され、 墓上には五輪塔が建てられました。



熊野信仰の念が強かった後白河 法皇が、法住寺殿鎮守のため紀 州熊野権現を勧請したことに始 まります。境内の大樟(市指定天 然記念物)は、熊野から移植され た後白河法皇お手植えの神木と いわれています。

新日吉神宮

後白河法皇が法住寺

殿の鎮守のため、比

叡山延暦寺の日吉大

ほうこくびょう

豊国廟

養源院

100

# 10

~文化財と遺跡を歩く~ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・㈱京都市埋蔵文化財研究所

## 京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物 館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績 を発表・展示するため昭和54年11月に設立されまし た。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が 展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパ ソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史 を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市 有形文化財に登録されています。

## 〒602-8435

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1 TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307 http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日) 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで) JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分 市バス 201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



## 東山 鴨東地区の発掘調査

東山三十六峰と鴨川に挟まれた地域を東山 地域といいます。この地域の南半(四条より 南) は古くから開けた土地で、白鳳時代から 残る八坂の塔で知られる法観寺があります。 また、平安時代後期には後白河法皇の御所 である法住寺殿があり、その北部には平家 一族の邸宅が建ち並んだ六波羅がありまし た。鎌倉時代には、その六波羅に幕府の出 先機関で西日本の武士を統括した六波羅探 題が置かれました。桃山時代に入ると、豊 臣秀吉が奈良の大仏殿よりも大きな方広寺 大仏殿を建立しました。このように、時の 権力者と密接に関係した地域でもありまし た。発掘調査は法観寺を始め、六波羅蜜寺 や法住寺殿、方広寺等多くの所で進んでい ます。

## 2 六波羅蜜寺境内

創建は、天暦5(951)年に造立した十一面観音を本尊とする 道場に由来し、西光寺と称したとする説と、応和3(963)年、 空也が鴨川の東に御堂を建立し、西光寺と呼んだのを始ま りとする説があります。境内で本堂の修理工事に伴う民俗 資料緊急調査で、本堂須弥壇下から高さ8cmほどの平安時 代の泥塔が8,000基みつかり、重要文化財に指定されまし た。近年の発掘調査では、室町時代の門・築地・柱穴・ 堀・溝・土坑等を発見しています。門や築地は中世の六波 羅蜜寺の北を限る施設と思われます。また、西側には深さ が約1.8mもあるV字形の堀があり、その西側が崖面になる ことから、この堀が西を限る施設と思われます。みつかる



## 3 方広寺跡

方広寺跡



京都国立博物館の旧新館とその北側には、豊臣秀吉が東大寺大仏

殿よりも大きな大仏殿を造るため、天正16(1588)年より造営を

開始した方広寺大仏殿がありました。建築のための部材は富士山

や屋久島等から運ばれ、刀狩で集められた武器類は釘や鎹にして

使用されました。大仏殿は正面の桁行が約90m、高さ約50mにも

達する堅牢壮大な建造物でした。大仏は工期短縮のため、金銅仏

ではなく漆喰仏の技術を採用した、高さ約20mの大仏でした。そ

して、開眼法要も間近に迫った文禄5(1596)年に大地震が襲

い、大仏殿は築地の崩壊のみでしたが、漆喰の大仏は無残にも崩

れ落ちてしまいました。その後、秀頼により大仏の再建が金銅仏 で計画され、築地も回廊に建て替えられ、このとき三十三間堂の

修理も同時に行われました。今も残る蓮華王院南大門と太閤塀

も、この時のものです。しかし、慶長7(1602)年、金銅仏の鋳造

中に大仏本体から出火し、大仏殿が焼け落ちてしまいます。その

後、慶長13(1608)年に再び秀頼により再建が進められ、大仏殿も

大仏も完成し、開眼法要を翌月に控えた慶長19(1614)年に、梵鐘

銘文が問題となり開眼法要は延期となるとともに、大坂冬の陣・ 夏の陣を経て豊臣氏は滅亡します。発掘調査では、大仏殿の基

壇・礎石据付穴・大仏台座の一部を検出しています。また、京都

国立博物館の敷地からは方広寺の南回廊と南門の礎石据付痕跡を

発見しており、回廊は複廊で格式の高いものであったことがわか

りました。また、西面石塁の裏込め地業の構造や南面石塁を長き

にわたりみつけています。石塁には五輪塔や石仏が裏込め石とし

て、大量に使用されていることもわかりました。













# 六波羅政庁跡(六波羅探題)

まれており、同時期の塼仏がみつかっています。

1 史跡法観寺境内

平氏の邸宅が建ち並んでいた六波羅の地は、平氏滅亡後には、 源頼朝が接収し上洛時の宿所を造営しました。承久の乱後はそ れまでの京都守護を廃して、この地に京都周辺の治安維持のた め鎌倉幕府の六波羅政庁がおかれました。発掘調査では、方広 寺の下層で道路や門、井戸等六波羅政庁に関係する遺構を発見 しています。みつかった井戸はどれもかなり深く、10mの深さ におよぶものもありました。

記すものです。その後、塔は治承3(1179)年に焼亡、建久2(1191) 年に源頼朝の援助により再建、正応4(1291)年に焼亡、延慶2 (1309)年に後宇多天皇の援助により再建、永享8 (1436)年に 焼亡、室町幕府6代将軍の足利義教が永享12(1440)年に再建 したものが現在の塔です。発掘調査では平安時代の土坑や柱 穴、溝等を発見しています。また、平安時代末期の整地層に は大量の瓦が含まれ、その中には7世紀に属するものが多く含









# 7 法住寺殿

法観寺は境内中央に五重塔があり、八坂の塔の通称で知られています。史料からは聖徳太子の創建とあり、一般的にはこの説に従っ ていますが、ほかに天武6 (678) 年や天長10 (833) 年創建とする説もあります。確実な史料上の初見は承和4 (837) 年の「八坂寺」と

> 法住寺殿は平安京と東海道・東山道・大和街道を結ぶ重要地点 に位置しています。また、後白河上皇と親しい平氏の邸宅群が あった六波羅の南側に位置することも重要です。この法住寺殿 の地域も、平安京と似た東西・南北の道路で区画割りされ、区 画の中に寺院や院御所が造られていきました。範囲は北が七条 坊門小路末、南は八条大路末付近、西は鴨川、東は東山までで 東西約0.6 km、南北約1.1 kmと推定されています。まず法住 寺南殿を造営し、続いて北殿、そして平清盛によって蓮華王 院(三十三間堂)が、建春門院によって最勝光院が造営されてい きます。発掘調査では、法住寺北殿で道路、蓮華王院で建物3 棟と路面や溝を発見しています。最勝光院では、築地の地業や 路面・側溝、井戸等を発見しています。井戸からは飾金具など 仏教関連の遺物が多くみつかりました。方広寺の下層から は、法住寺北殿に関連する路面幅約4.6mの道路・側溝や門等





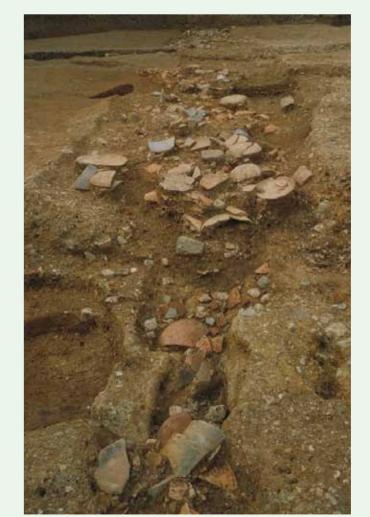






## 3 法性寺跡

法性寺は摂政関白藤原忠平によって、延長2 (924) 年頃に創建 されたと考えられています。東福寺を含め、鴨川の東で法住寺 殿の南から現十条通辺り一帯を占めていたと思われます。延応 元(1239)年、寺域内に九条道家により東福寺が造営され、法性 寺は衰退していきます。また、寺域南部は江戸時代から伏見人 形等の工房があった場所でもあり、発掘調査で多くの伏見人形 の土型がみつかっています。寺の遺構は平安時代中期の建物を 検出しています。また、寺創建よりも古いと思われる平安時代 前期の溝等もみつかっています。







資料提供:財団法人京都市埋蔵文化財研究所